AXプラットフォーム構想
「企画競争」説明資料（事業者向け）

2026年10月13日

独立行政法人
情報処理推進機構

デジタル＆AIシステムズデザインセンター デジタルトランスフォーメーション部
AX基盤構築ユニット

現状認識：　AI・データ活用の現在地と課題

従来のDXは企業格差はあれど進展、AI導入は初期段階であり企業規模による差が大きい。
AIによってデータの潜在力が発揮される時代、０⇒１（課題1）、１⇒１０、１０⇒１００（課題2）に注力する必要がある。

DX、AI利用、データ活用の状況（2025年度、%）

	中小企業 ※100人以下	大企業 ※1,001人以上
DX（2023年度参考）	41.6 (47.3)	98.7 (97.4)
AI利用	27.1 課題1	89.4
データ活用	39.8	80.6 課題2

（出典）中小機構「中小企業のＡＩ等の利活用に係る実態調査（2026年3月）」
（出典）IPA「DX動向2026」
DX取組状況は、全社＋一部部門＋部署毎の合算値
AI利用状況は、導入＋試験利用の合算値
データ利活用は、全社＋事業部門・部署毎＋実証実験の合算値

AIの付加価値創出効果

中小企業でのAI導入は、**従来IT活用よりも付加価値創出効果が高い**との回答

22.3% ／ **従来のIT 7.4%**

データ利活用の課題（上位４回答）

Q1. データ整備・管理・流通の課題：
①人材確保、②標準化、
③システム整備、④全社方針・文化の不在

Q2. データ連携の課題：
①人材不足、②費用対効果が不明、
③セキュリティ、④ビジネスモデル描けず

現状認識：　全国で実施中のAI施策

実施中の施策について、大きく「人材育成」と「マッチング・PoC（概念実証）」に分かれている。
一方で社内人材のAI実装という点では施策は限られており、AIの機能向上により生まれた第3の軸に対応する必要があるのではないか。

施策タイプ	主な施策・具体例	主な実施自治体（例）
AI人材育成 AIを活用できる 人材・組織の育成	佐賀県 **RYO-FU BASE「SAGAX」** • 生成AI・Copilot等を活用したハンズオン講座 • 基礎理解から実践的なユースケース開発までの集中プログラム（例：3days） • 地域企業・学生・支援機関が連携した学びの場	 **多数の自治体で展開** 自治体・大学・支援機関等が連携し、生成AIの基礎から実践までを学ぶプログラムを全国的に実施。
マッチング・補助金 企業と支援機関の接続 実証・社会実装の支援	広島県 **ひろしまサンドボックス** • 行政・地域課題を起点とした実証プロジェクト • 企業・スタートアップ・支援機関のマッチング • 補助金による実証実験・社会実装の支援 • 実証フィールドの提供、成果の横展開	 **広島県・新潟県・大分県 など** 自治体が主導し、企業・スタートアップとの連携や補助金による実証支援を通じて、地域課題の解決と社会実装を推進。

目指す姿：地域での企業AXの推進に求められている3つの要素

AIをビジネス価値につなげる人材、活用・循環できるデータ、
そして企業の枠を越えて価値を生み出す共創環境を、三位一体として整えていく必要があるのではないか。

01 AX人材の育成

AIをどこに活用すべきかをビジネス視点で考え、変革を主導できる人材を育てる。

Key Word　AI知識・技術 / ビジネスアーキテクト
企業内リーダーシップ

自社内でAI技術とビジネス価値を結び付けられる人材を育てることが重要

AXに重要な三要素

02 データ利活用

AIやシステムにも利用しやすい形でデータを整え、継続的に活用・循環させる。

Key Word　データ連携 / データマネジメント

保管、証跡のためのデータではなく、価値創出に向けてデータを創り出す

03 共創の仕組み

データ・テクノロジーの可能性から既存を超え、地域のサービスや技術を組み合わせる仕組みづくり

Key Word　Transformation / Platform / 地域エコシステム

部分最適ではなく、企業価値向上や未来にどう繋げるか自社のあるべき姿や、自社の外との結びつきを考える

企業規模・組織にとらわれないイノベーション環境の創出

目指す姿：本構想で実現したい範囲

実装過程を学びながらデータの流れ・重要性を理解し、これからを見据えたデータの管理につなげる。

AI実装力を地域中小企業に展開することで、アイデア→システム（価値）へのハードルが大きく下がる。

Phase0 自社データの理解

自社データの理解
これからのデータを考える

Phase1 アイデアの可視化

AIを用いて、
解決策を動くプロトタイプにする

Phase2 アイデアの実証(PoC)

システムの実証
自社データの組み込み

Phase3 共有・ナレッジ化

地域内での共有
協業検討

方向性を定める → 自社で試す → データとシステムを結合する → 刺激が循環する環境を作る

一連の流れを参画企業の人材が学び得ることで
AI実装力、AI時代の事業価値創出の可能性をつかむ

AXプラットフォーム構想(本企画)

目指す姿：AXプラットフォームの創出

AI実装人材は個社だけでは育ちにくい。最新のトレンドや実体験が集まり、相談できる環境があると自走が進む。

個社での自走は限界がある

アイデアが続かない

日々の業務に追われ
新しい発想が出にくい

相談相手がいない

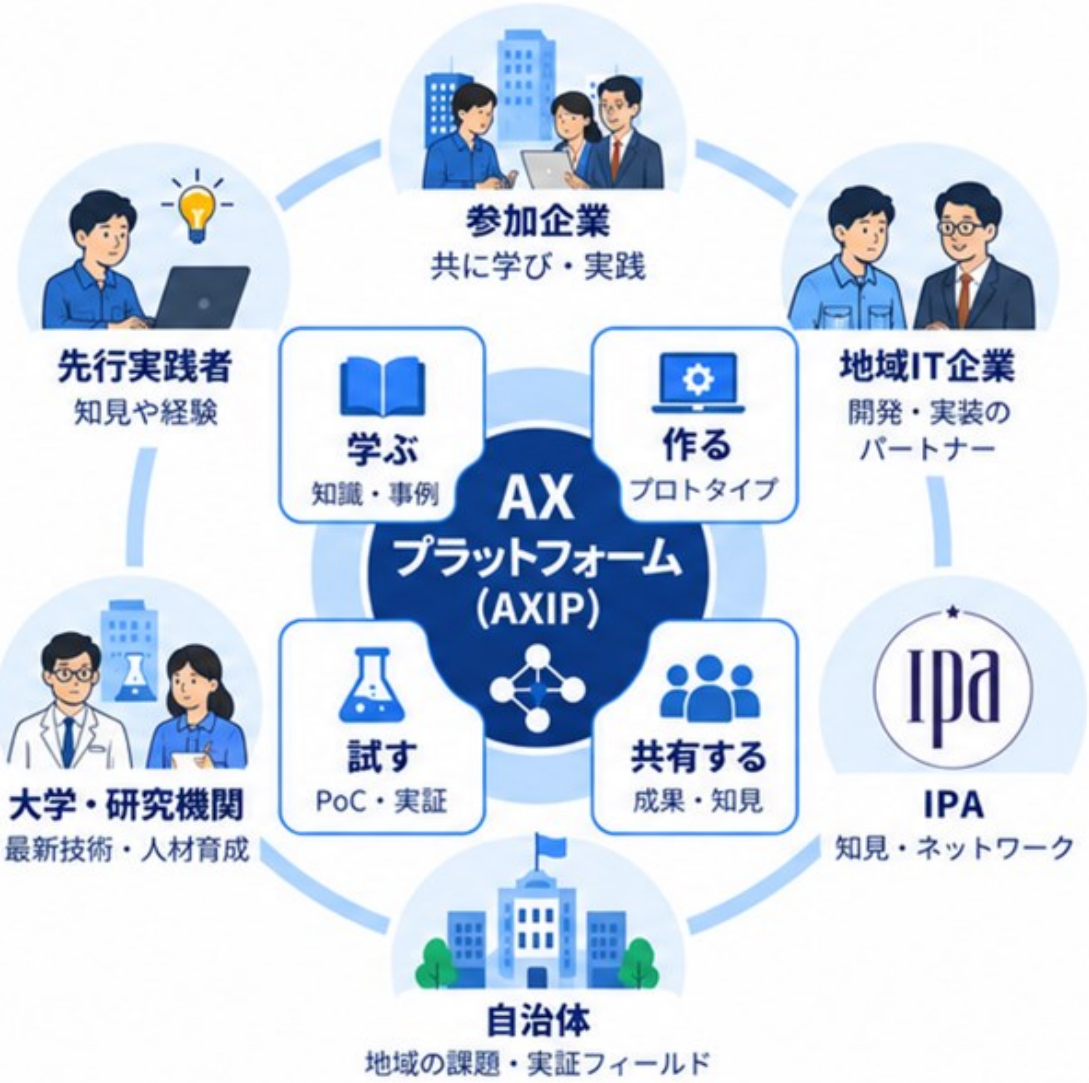
技術・業務の相談が
できる人が社内にいない

成功例が見えない

自社に合う事例がなく
効果のイメージが湧かない

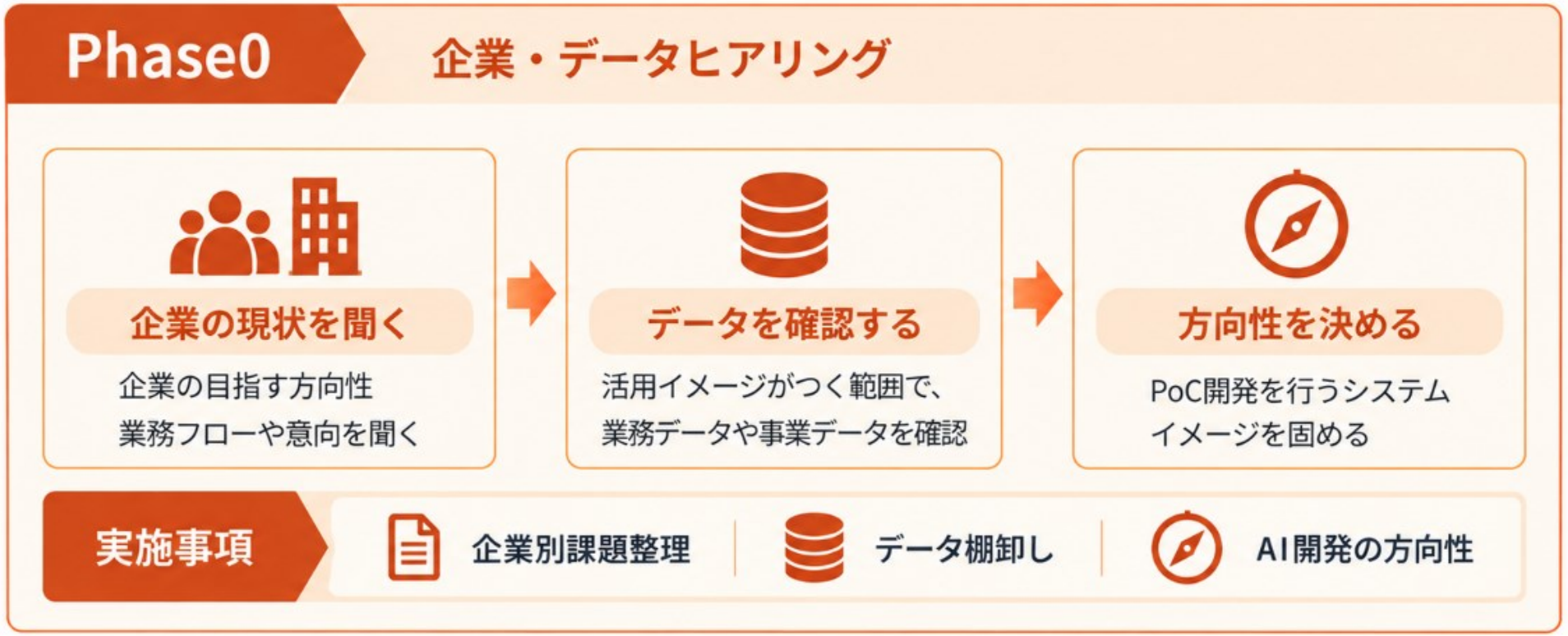
一人では継続しにくい

モチベーションが続かず
途中で止まってしまう



AXプラットフォーム構想 <Phase0>

Phase0では、PoC参加企業を対象にした事前ヒアリングを実施。企業の方向性、データの確認と開発方向性を明確にし、
限定的な範囲を対象にPhase1/2への示唆出しを実施する。

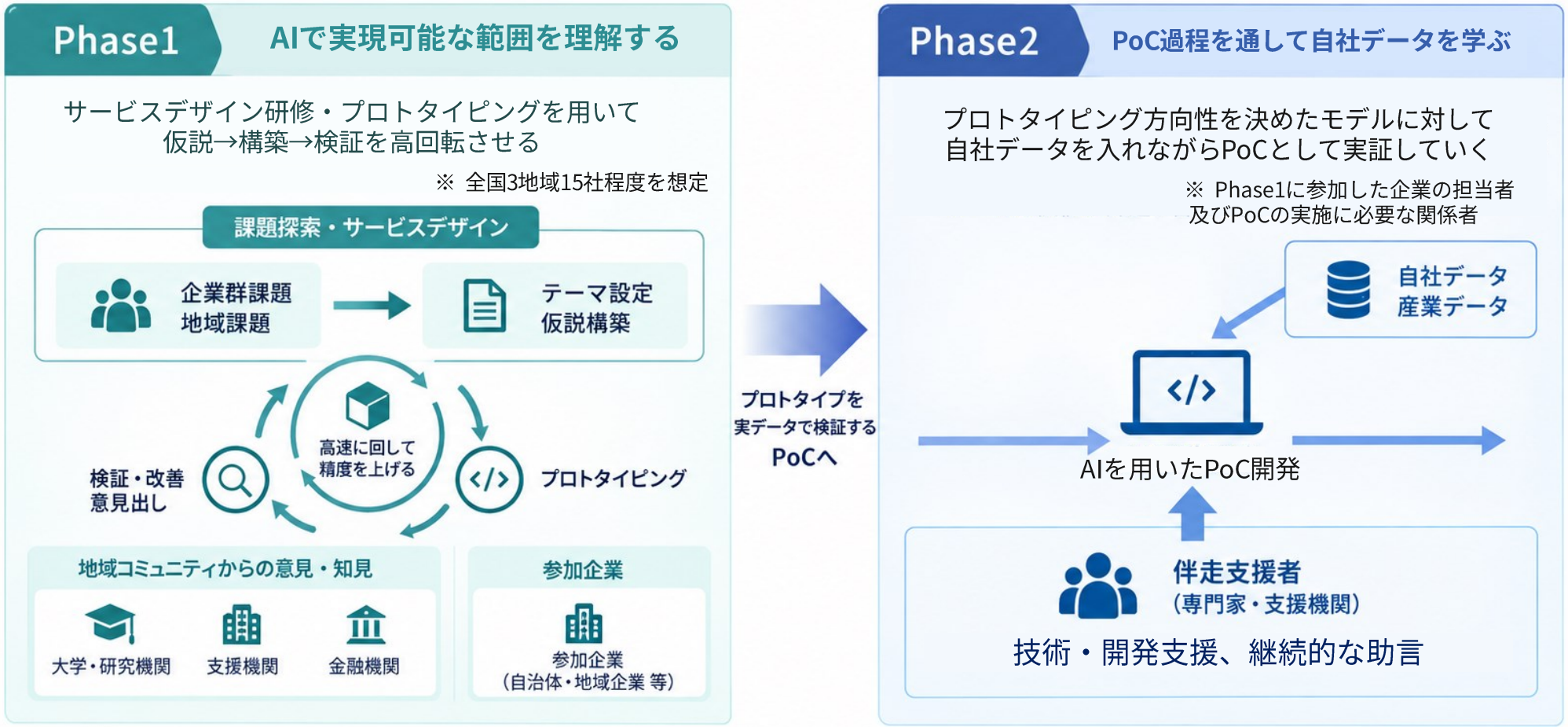


広報物の作成

AXプラットフォーム構想の価値や参加メリットを伝えるチラシ・ランディングページを作成
地域企業の関心喚起につながる広報物の企画・デザインを行い、事業内容を分かりやすく発信

AXプラットフォーム構想 <Phase1-2>

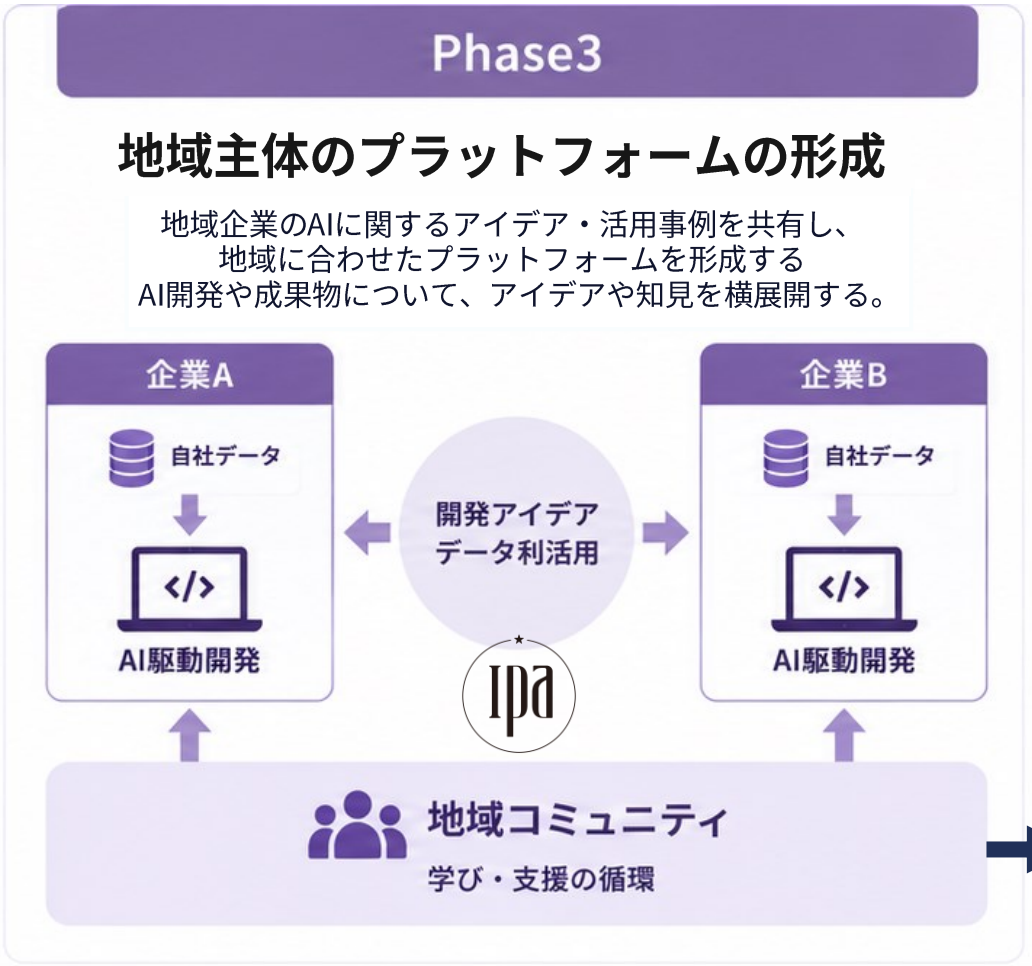
Phase1/2では多様なステークホルダーと企業による、AIを用いながら仮説構築・検証を高回転で実施するプログラムを実施、
定まった方向性に対して、社内人材主体でAI開発による、アイデアのPoCを行う。



※本事業の対象はプロトタイプ及びPoCまでであり、本番システム構築は含まない

地域プラットフォーム構想（将来イメージ）

将来的にお互いに作りながら高めあう、アイデアや可能性が交差するコミュニティを形成し、
人材・データが循環するエコシステムの確立を目指す。



高齢者・患者のケア

参加企業	診療所、薬局、訪問介護、訪問看護、デイサービス、老人ホーム 等
集めるデータ	血圧、病歴、服薬状況、生活状況 等
活用	地域での体調悪化の早期警戒

インフラの予防保全

参加企業	建設会社、設備会社 等
集めるデータ	道路・橋・上下水道の施工状況 等
活用	地域インフラ劣化の予防保全

物流の最適化

参加企業	運送会社、倉庫会社 等
集めるデータ	空き状況、配送予定、時間、ドライバー稼働、倉庫の空き 等
活用	地域全体の物流網の最適化

受発注の共同システム化

参加企業	製造業 等
集めるデータ	受発注データ 等
活用	共同センタ型での受発注デジタル化、市場予測に活用

地域課題・目的に応じた
コミュニティによるシステムの創出（※例）

AXプラットフォームの形成は次フェーズ以降で行う将来的なイメージであり、
本企画では、形成に向けた構想を策定する。

本事業の実施におけるIPAの役割

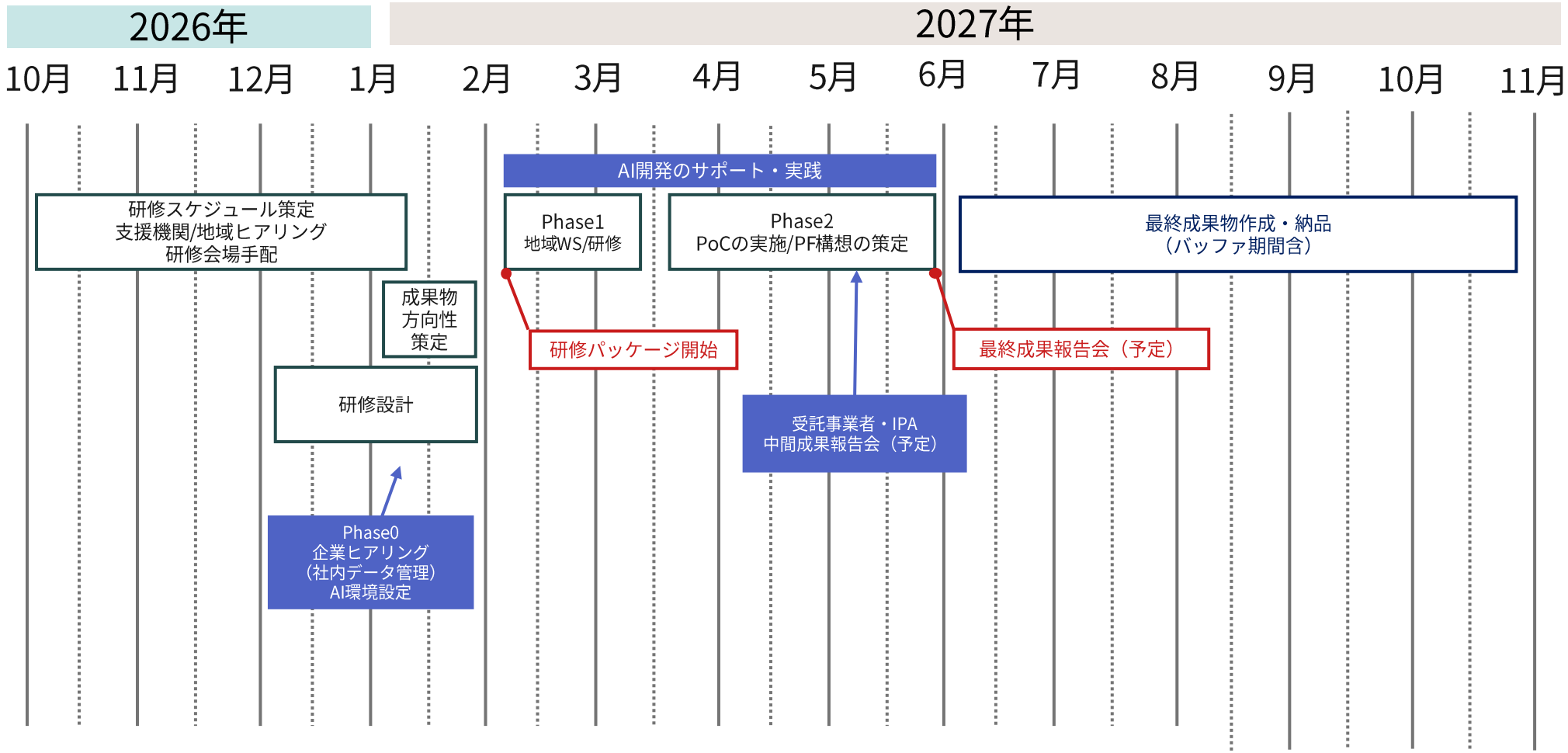
地域とのコミュニケーションを主に、全体調整とコーディネートを担当

企業のPoC進捗状況のフォローや、伴走支援リソースの配分、成果物の方向性を検討していく。

	Phase1 AIで実現可能な範囲を理解する	Phase2 PoC過程を通して自社データを学ぶ
受託企業 (調達範囲)	・研修・ワークショップの設計と企画 ・参加企業への事前ヒアリング ・プロトタイプ作成支援・レクチャー ・地域ごとの共通課題の整理	・PoC開発支援・伴走支援 ・実証環境の設計・提供 ・成果物の作成・報告会の開催 ・受講者フォロー・質問対応 ・成果物方向性の検討
IPA (全体調整)	**参画機関・企業との調整 / 全体コーディネート /進捗管理** ・候補地域の選定と課題明確化 ・コミュニティの活性化、仕組みづくり ・地域コミュニティへの広報活動	・各PoCの進捗状況の確認 ・伴走支援リソースの配分調整 ・受講・受託業者との成果物方向性の検討

Phase 0〜2 ｜実施スケジュール

候補地域・参加企業の選定後、ヒアリング、研修、PoC支援及び成果共有を通じて企業のAX実践力向上を支援する。
併せて、地域共通の課題や活用可能なデータ・機能を整理し、地域プラットフォーム構想につなげる。

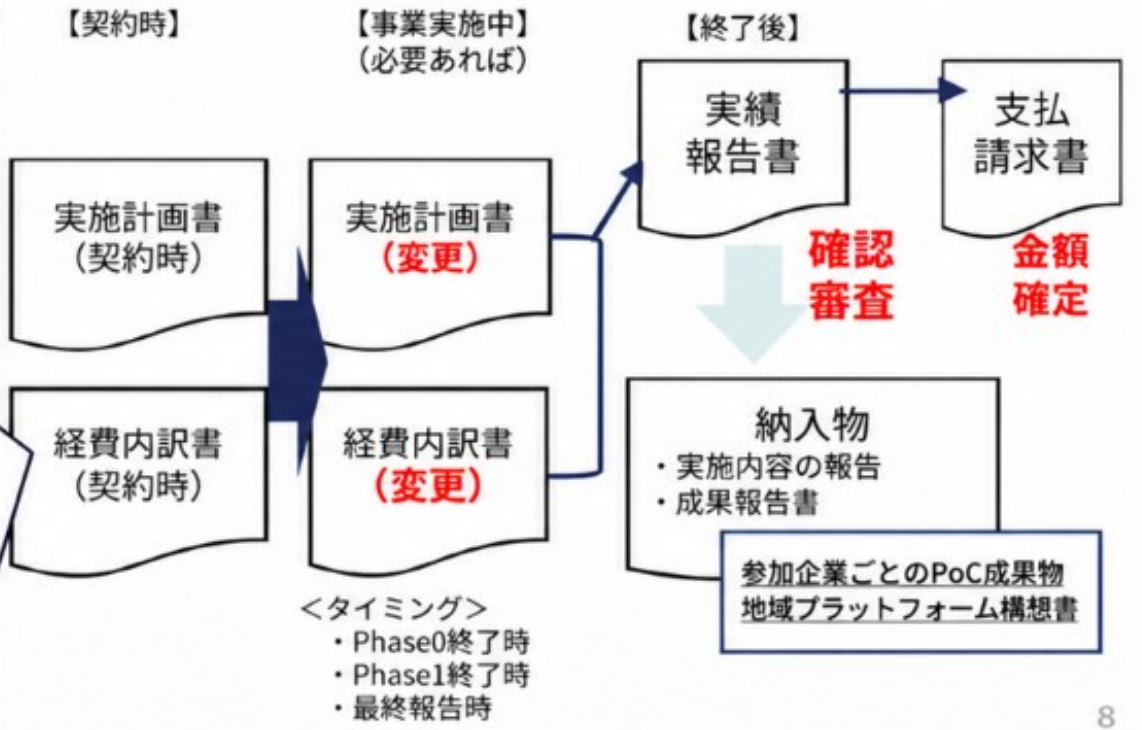


『準委任契約』である理由

- 支援する企業の参加状況により、契約時の経費内訳書の内容を変更する必要が生じる可能性あり
  （AIツール・クラウド環境のアカウント数、伴走支援工数など）
- この場合は予算の範囲内で経費内訳書を修正してIPAに提出
  （修正を受け付けるタイミングは、2回の中間報告、最終報告の計3回を想定）

経費内訳書（の一部）

	小項目	費用区分
実証事業	事業全体の設計・運営	人件費 事業費 再委託・外注費
	Phase0　企業・データヒアリング	人件費 事業費 再委託・外注費
	Phase1　研修・プロトタイピング	人件費 事業費 再委託・外注費
	Phase2　PoC・伴走支援	人件費 事業費 再委託・外注費
	成果報告・地域構想	人件費 事業費 再委託・外注費



項目	日程
公募期間	2026年10月5日(月)～11月2日(月)
公募説明会	2026年10月13日(火)14時00分
質問の受付期間	2026年10月13日(火)～10月23日(金)
提案書等の受付期間	2026年10月29日(木)～11月2日(月)17時00分まで
審査期間	2026年11月4日（水）～2026年11月11日（水）
ヒアリング	2026年11月6日(金)（予定）
採択結果の通知	2026年11月中旬（予定）
契約締結日	2026年12月中旬（予定）
納入期限	2027年11月30日（火）

※公募要領、仕様書等に修正が生じた場合は、IPAホームページ上で更新版を公開します。
更新履歴は公募要領の冒頭に掲載しますので、応募に当たっては適宜最新の資料をご確認ください。

質問の方法
質問書（入札説明書内 様式1）に所定事項を記入の上、『提出先』に記載する担当部署に電子メールにより提出すること。

受付期間
2026年10月13日(火)15時00分から2026年10月23日(金)　17時00分まで。
なお、質問に対する回答に時間がかかる場合があるため、余裕をみて提出すること。